
残酷流星少女

殺狂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

残酷流星少女

【Zコード】

Z5224Z

【作者名】

殺狂

【あらすじ】

自分嫌いでしょっちゅう自殺する少女と、それと関わる人たちのお話。自己満足長編ですので、「了承ください」。

じある魔女と少女

それは遠い世界のお話。

「もしも、三つ願いが叶つとしたら、何を願いますか?」と、とりあえず魔女は問いを投げた。まだ、10歳にも満たぬ小さな少女だった。

少女はすかさず、三つ答えたといふ。

「一つ目、自分が死んでも誰も哀しまない世界。

二つ目、世界が平和で幸せになること。

三つ目 過去をやり直すこと」

はたして、魔女はそれを叶えたのか?

それとも、魔女はそれを叶えることを否定したのか?

それは、誰にも分からぬ。

ただ、一つだけ分かるのは・・・。

少女が自分の存在を否定していることだった。

いる少女と少年

過去の過ちは、こつだつて私を苦しめてきた。

笑っているときに、脳裏のりに大勢の声がするのだ。

「何故おまえだけが笑つていられるんだ?」

「最低。人殺し」

「おまえなんて死んでしまえばいいのに」

別に否定はしない。あることはない。……それが真実なのだから。

過去の過ちを、やつ直すことは出来ない。

だから……それを認め、償いとして死者の望んでいたことをするだけだ。

それが……彼らのためなら……。

＝＝＝＝＝

＝＝＝＝＝

＝＝

＝＝＝＝＝

＝＝＝＝＝

＝＝

並盛中学校。最上階、屋上。

ファンスを飛び越え、自殺しようとする少女がいた。

彼女の名前は倉橋桜子くらはし さくらこ。学校では厄介な問題児であった。

それは暴力的なほうではなく、彼女の行動であった。

あるときには、リストカットしてみたり。あるときには、家庭科室の包丁で心臓を刺そうとしてみたり。

あらゆる自殺表現を、生徒・教師の前でやつてのけるのだ。

そして、今まさに、飛び降り自殺をする気なのだ。

細く白い腕が、フェンスの縁から離れる。

そして、体をゆっくりと前に傾け、足を踏み外し
ん！－

扉が開き、一人の少年が入ってきた。

桜子はゆっくりと振り返り、少年を見る。

「沢田・・・」

少年は桜子に近づくと、怒った顔をし、いついついた。

「いい加減やめろよ！ そんなくだらない」とーー。

だが、少女は表情を変えず、言葉を返す。

「・・・私が死ななきや、彼らの望みは叶えられないんだよ・・・

桜子は思い出すような顔をし、ふつと表情を曇らせる。

「・・・いいから。早く降りて」

「・・・」

渋々《しぶしぶ》フェンスから降り、少年の顔を見る。そして、少年を睨むと、いつ言った。

「次には見つからないように死んでやる・・・」

「死なせないよ」

少年はすかさずいつ言った。

桜子は顔をしかめると、また問いつ。

「何故・・・何故止めるんだ? 沢田には関係ないだろ?」

少年はしばらく黙つて、いつ言った。

「・・・大事な友達だから・・・かな。それと

「

とても小さな声で、少年は言った。

「? なんて言った?」

桜子には聞こえなかつたようだ。

「・・・なんでもない」

首を振ると、少年は桜子の手を持つて、走り出した。

とある三人組

教室に帰ると、いつものように一人の青年が喧嘩していた。

帰国子女でキレやすいの獄寺隼人と、野球好きで天然な山本武だ。

二人は沢田と私が教室に入ると、喧嘩をやめ、話かけてきた。

「お帰りなさいませ！10代目！…」

「う、うん。ただいま、獄寺君」

「桜子もおかえりなのなー」

「・・・ん」

適当に返事をし、自分の机の中からメモ帳を取り出す。

書かれているのは今までに行つた自殺の方法。

達成出来なかつたものには×印を入れ、理由もちゃんと書いてある。

今日は「飛び降り自殺」が出来なかつたから、書き入れとこう

今までにも、かなりの自殺方法を実行したが、殆どが止められた。

そして、止めた人物がさつきの3人。沢田、獄寺、山本。

3人は私が自殺したいのを知っていても、必ず止めてくる。

正直言つて・・・うやうつたい。

他人の人生にどうこう口出ししてほしくない。

それが・・・私の思つてること。

「おい！倉橋！聞いてんのか！？」

突然の大声に、私は我に返る。

「・・・聞いてない」

「つたぐ・・・10代目が遊びに誘つてやつてんだぞ？」

「どうやらにしる・・・私は遊ばない」

「おまえ・・・10代目が折角忙しい休日^{せつかく}に遊んでくれるというのに・・・」

「う」、獄寺君・・・」

「知らん。第一、誘われた本人が断つているんだ。何故無理やり遊ばせようとする？」

私は、獄寺が好きだ。友達として。

よく私につつかつてくる。私が何か言えば、ムカついてまたつかかる。子供のような奴だが、こういう奴のほうが嫌つてくれるだ

るつ。

逆に山本は苦手だ。能天氣で、勘違いばかり。何か言つても笑つて返す。言動をまったく気にしない人間は苦手だ。

沢田は嫌い。私がキツい言葉を投げつけても、アイツは「大切なから」と言つて、何も聞かない。優しいのはいいことだが、私にとつては悪魔のような奴だ。

と、いうわけで、3人の友達にも、このように三つの種類に別けられてはいるが、改めて実感するのであつた……。

ひかる壁つ道（前書き）

今日は短めです。

とある帰り道

帰り道・・・私が唯一独りになれる時間。

家の近くの公園には、小さな子供がたくさんいた。

あの子達を全員殺して捕まつたら・・・。

ふと、そんな考えが頭によぎり、慌てて打ち消す。

私は自分一人が死ぬだけでいい。なにも他人を巻き込むことはない。

それも・・・まだ長い未来がある小さな子供を・・・。

そして、また自殺の方法に思い耽る。^{ふけ}

そうだな・・・何にしようか・・・。

あんまり人目がなくて、自殺しやすい所がいいな・・・。

そういうえば・・・黒曜のヘルシーランドだつけ・・・。

あそこは建物が崩れてるしな。うまく行けば落下して死ねるかもしれない。

そうだな。それがいい。そうじょづ。

いざ、黒曜に出発。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5224z/>

残酷流星少女

2011年12月20日18時54分発行